



小さな拠点「里山キャンパス益子家」 プロジェクト

2025年度最終報告

2026.02.06

宇都宮大学農学部農業経済学科 西山研究室

阿部亮介、菊地泉希、藤島空哉、角田鞠乃、草野史織、高橋真彩

1. 2025年度の活動内容

活動内容/時期	7月	8月	9月	新たにやったこと これからの予定	10月	11月	12月	1月	2月
米作り ・ みんなで田んぼ ・ 自分で田んぼ ・ 地域で田んぼ	稲刈り			①米作り ・ みんなで田んぼ ・ 自分で田んぼ ・ 地域で田んぼ	脱穀、粃摺り、耕耘、精米・発送作業				
地域食堂 ・ 地域を知るWS	生き物 観察会			②地域食堂 ・ 地域を知るWS	大平散歩 (赤道 マップ)	地域問題 を専門家 に学ぶ	地域の名人 にそば打ち を習う	大平の 混ぜご飯づく り	ピザ窯 でピザ づくり
山 ・ 環境整備 ・ 小屋制作				③山 ・ 環境整備 ・ 小屋制作					
				④その他 ・ イベント出店 ・ 益子家での イベント開催		森と里のつな がるマルシェ			ピザ窯 づくり

1 - ①

3つの「〇〇〇で田んぼ」

益子家前の耕作放棄地を利用し、無農薬・無肥料の自然栽培米を作る。



みんなで田んぼ

棚田オーナー制を導入
東京・埼玉・町内の3組の
オーナーが無農薬・無肥料
の米作りにチャレンジ。



自分で田んぼ

大平地区の専業農家と協業
して、無農薬米を栽培。機
械作業は農家、手作業は益
子家+地域住民で分担



地域で田んぼ

担い手の高齢化で耕作放棄された田んぼを借りうけ、
地域内外の人に作業に加わってもらう仕組みを作ること、
関係人口の増加を狙っている

1 - ② 米作りの進捗



11月15日

放送大学の受講生とともに脱穀作業を実施



12月上旬

収穫した米のもみすり作業



12月下旬

耕耘作業

2. 地域食堂 + 地域を知るWS

地域食堂の位置づけを見直し、地域の食を囲みながら**“資源や人をよく知る”**ワークショップの機会に

- **大平散歩**（10月25日）

以前あった店や作業道の赤道（あかみち）など地域の資源について地域の方に伺いながら散歩し、地図にまとめる

- **そば打ち体験**（12月20日）

地域の名人にそば打ちを習う

- **大平の混ぜご飯作り**（1月24日）

大平地区で食べられていた混ぜご飯を地域食堂で再現



3. 山の利用

- **環境整備（草刈り、枯木の伐採など）**

ほぼ、毎月1回のペースで、草刈りなどを実施
ボランティアを募っての作業も昨年に引き続き
実施予定

- **小屋の制作の再開**

交流人口との交流の拠点としての小屋の制作
の再開 今年度中にはある程度完成する予定



4. 森と里のつながるマルシェ@茂木町

森と里、つまり生産者と消費者が直接つながるマルシェに参加

- **サポーターとして**

運営や他の出店者さんの手伝いを行う
同じ思いを持った方々と交流する機会に

- **出店者として**

お米、Tシャツの販売、綿繰りのワークショップ
益子家の活動の意義を知ってもらう機会に



5. “藻谷浩介さんと宇大生 農村の未来を語る会2025”

ゼミのテキスト「**里山資本主義**」の著者の藻谷浩介さんにお越しいただき、農村の未来についてディスカッションする機会を得た。

「農村の資源と里山資本主義」 「2050年の農村とそこへの道筋」

という2つのテーマで藻谷さんと学生が語り合った。

益子家にある資源について改めて考えたり、大平地区を事例に未来を具体的に想像したりすることで、メンバーそれぞれが自分事として農村問題、未来の社会のあり方を深める機会になった。



6. 益子家の目指す姿

農村の持続可能性をテーマとし、益子町大平地区の益子家を拠点に**アクションリサーチ**を実践。研究の蓄積から、農村資源の価値の発見や地域課題解決の糸口を見出す。

